

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度 )

事務事業名	モーターボート競走事業	担当所属	ボートレース管理課
		連絡先	0834-25-0540

【事務事業基本情報】

分野	9行政経営	事業期間	～ 永年
基本施策	3持続可能な財政運営	会計種別	企業会計
推進施策	(1)積極的な財源の確保	事業種別	自治事務
根拠法令要綱	モーターボート競走法		

【事業概要・指標】

事業概要	対象	モーターボート競走事業によって得られた収益をもって周南市が提供する市民サービスの充実や、まちづくり施策の円滑な実施を支えます。
	意図	モーターボート競走法（第1条、第31条）等に規定されているとおり、住民福祉の向上に寄与します。
	成果	昭和28年の開設以来、旧徳山市時代を含め、平成31（令和元）年度まで約631億円を一般会計へ繰り出した。
	手段	今後も安定的にモーターボート競走事業を実施することで、その収益を継続的に一般会計へと繰り出し、住民福祉の向上や市の財政運営の健全化等に貢献します。

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	当年度純利益（千円）	目標値	%	71193	154828	160330	1998951
		実績値	%	2226835	3027862	3891377.91	-
		目標達成度	%	3127.88	1955.63	2427.11	-
指標②		目標値					
		実績値				-	
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

平成23年2月からの「モーニングレース」の導入や、平成23年12月の外向発売所「すなっちゃん」、平成28年12月のオラレ田布施の開設などにより、電話投票、場間場外の売上が伸びたことから、平成23年度から継続して黒字決算を達成。平成31（令和元）年度は、12月のPG1クイーンズクライマックス開催も収益向上に効果的だった。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	39,405,583	46,662,777	51,188,344	63,024,709	50,045,004	
事業費	千円	39,266,370	46,522,785	51,048,808	62,872,228	49,892,523	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	その他	千円	39,266,370	46,522,785	51,048,808	62,872,228	49,892,523
	一般財源	千円	0	0	0	0	0
人件費合計	千円	139,213	139,992	139,536	152,481	152,481	
正職員	千円	139,213	139,992	139,536	152,481	152,481	
人員	人	19.000	19.000	19.000	21.000	21.000	

【環境変化等】

開始時の周辺環境

昭和28年の開設以来、旧徳山市時代を含め、平成31（令和元）年度まで約631億円を一般会計へ繰り出した。

現状の周辺環境

合併の前後、一般会計への繰出しができなかった時代があったが、平成23年2月から「モーニングレース」を導入し、それ以降黒字に転じ、一般会計へ平成24年度から平成31（令和元）年度の8か年で15.7億円を繰り出した。

今後の予想される周辺環境

発売形態割合が変化し、本場発売が年々減少するなか、電話投票や場間場外発売といった広域発売が大きく伸びている。

**【事業の評価】**

<b>【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）</b>		
評価	A	妥当である
安定的・継続的にボートレース事業を行う必要がある。		
<b>【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）</b>		
評価	A	妥当である
一般会計に繰出しを行い住民福祉の向上や増進に寄与することは妥当と考える。		
<b>【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）</b>		
評価	A	妥当である
純利益は繰出額算定の基礎となる金額であるため。		
<b>【有効性評価】 4. 計画の実施状況</b>		
評価	A	実施できた
平成31（令和元）年度はPGIクイーンズクライマックスを開催し、売上目標の115億円に対して133億円を売り上げた。		
<b>【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度</b>		
評価	A	達成できた
平成29～31（令和元）年度について目標値を達成している。		
<b>【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度</b>		
評価	A	貢献できた
平成24～31（令和元）年度の8か年で15.7億円を繰り出しており、基本施策の「持続可能な財政運営」に貢献できている。		
<b>【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み</b>		
評価	B	向上余地が考えられる（中小程度）
更なる収益の向上のため、新規ファンの獲得や有力顧客を囲い込むとともに、全国23場及び場外発売場への営業活動を強化する。		
<b>【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み</b>		
評価	B	削減余地が考えられる（中小程度）
ランニングコストの削減はもとより、時代の変化に対応し、収支の向上を念頭に「あれもこれも」から「あれかこれか」の選択を図る。		
<b>【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討</b>		
評価	A	類似事業はない
安定的・継続的な繰出しを目的とする他の事業はない。		
<b>【効率性評価】 10. これまでの実施手段</b>		
評価	A	最適である
モーターボート競走法に沿ったものであり、最適である。		

<b>【総合評価】</b>		
評価	A	モーターボート競走事業の収益を一般会計へ繰り出すことを通じて住民福祉の向上に寄与。

**【改革案】**

今後の実施方向性		維持	期待効果		
成果	上昇 維持 縮小	○	コスト		
			削減	維持	増大
<b>改革効果（どのような効果が期待できるか）</b>					
①新中央スタンドのように、施設をコンパクトにすることで、ランニングコストの削減を図る。②特別観覧施設ROKUを積極的に活用し、新たなファン獲得に向けた取り組みを行う。③ロイヤル席について質の高いサービスを提供することにより有力顧客の囲い込みを行う。④全国23場及び場外発売場への営業活動を強化する。					